

## 三年千日のスタート

一昨年 2011 年十月の秋季大祭に参拝し、真柱様の「諭達第三号」ご発布を拝聴させて頂いた。丁度その月の十月は、詰所教養掛を拝命していて、一ヶ月間修養科生の世話取りのご用をつとめさせて頂き、その任務を終えて心勇んでご発布を拝聴させて頂いた。それ故、真柱様のお言葉の一つ一つが、自分の心に感激と躍動感を与えつつ且つ自然に収まっていくのを感じた。そして、「さあ、これから三年千日の旬の波に乗って、教祖のお喜びいただけるようひながたを目標に、真剣に、素直に、勇んで、喜び一杯ご用をつとめさせて頂こう。」と、心定めてハワイに戻った。

戻った翌日だった。息子から、「親友の S さんが自宅で倒れ救急車で病院へ運ばれ、緊急入院したので、すぐに行っておさづけ取り次ぎしてほしい。」と、連絡が入った。早速、家内と私は病院に駆けつけたが、S 君は、集中治療室で検査を受けていた。二時間程待って医者から許可を得て、奥さんとお両親とともに治療室の部屋に入った。病名は肝硬変。病状は極めて厳しいとの事だった。昏睡状態で足はむくみ顔色も良くなかった。手を洗い清めてから早速、意識が取り戻せますようお願い、三日間仕切っておさづけの取り次ぎをさせて頂いた。おさづけの取り次ぎを終え、待ち合いロビーに戻り家族はじめ駆けつけた親戚や多勢の友人たちと共に夜遅くまで待機することになった。

ロビーで待っている間、S 君の五年前の身上、つまり最初に肝硬変で入院した時の事を思い返してみた。そのときの医者の診断の結果によると、肝臓が本来の大きさの三分の一ほどに収縮していて正常に機能していない状態だった。この時も、息子から、「おさづけ取り次ぎしてほしい。」と連絡があり、早速病院に駆け付けおさづけを取り次がさせて頂いた。そして手術を受け、S 君は少しずつご守護を頂いて回復して行った。一ヶ月程入院し、その間毎日おさづけ取り次ぎに病院へ通った。私は、「人間には、それぞれ寿命があるでしょうが、何とか御守護頂き、少しでも長生き出来ますように。」と親神様、教祖に願い、教会ではお願いいづとめを毎日つとめさせて頂いた。

一ヶ月余の入院後、お陰で無事退院する事が出来、自宅でしばらく療養し通院とリハビリ治療を受けることになった。引き続きおさづけ取り次ぎとお願いづとめはその後も続けた。そして六ヶ月後には、元気を取り戻し仕事にも復帰出来るまでになった。ご存命の教祖のお働きにより鮮やかなご守護を頂いたのだった。その後、しばらくして結婚式を挙げたいので私に主礼をつとめて欲しいとの依頼があり、めでたく結婚式を挙げたのだった。

一方、一人息子へのご守護を実感した母親の I さんは、以前から足の身上で歩行困難となり、不自由な思いをされていた。そのために家に閉じこもりがちになり、外出はもちろん庭に出る事も少なくなっていた。S 君へのおさづけ取り次ぎのみならず、母親の I さんにもおさづけを取り次ぎを申し出ると快く受けて下さった。おさづけ取り次ぎを続けているうちに少しずつ元気が出て来て、教会の月次祭には足を運び、神殿へ向かう階段を手すりを持って登ることが出来るまでに回復された。I さんは、息子に対する教祖のご守護に感謝するだけでなく、ご自

身の身上の上に頂くご守護にも感謝するとともに教えを学び、どんな中も日々生きる喜びを味わうことの大切さを身につけていかれるのだった。

そして最初の身上から数えて5年の歳月が経った。S君の身上に異変が起き、自宅で倒れて病院へ搬送された。肝硬変の再発だった。医者診断では、手術は無理だった。三日間おさづけ取り次ぎとお願いづとめを真剣につとめさせて頂いた。三日後にS君は生まれ変わるために安らかに出直した。三十八才の若さだった。母親のIさんは、後悔を残したくなので最後まで寄り添って息子S君の看病をした。家族や友人達はみんな涙を流した。S君を兄貴のように慕っていた私の息子は、彼の出直しを悔やんで落胆した。父親のRさんは陰でそっと一人になって泣いていた。私にはその父親としての気持ちが痛いほどわかる。それ故、私も心苦しく辛かった。こころの中で、親神様、教祖に真実が届かなかったお詫びと今まで頂いた深いご守護にお礼を申し上げた。「なろうと思うてもならん、ならんと思うても成ってくる。これが天の理。」のお言葉が、心に響いた。

教祖百三十年祭へ向かう三年千日の指針である「諭達」のご発布を受けて間もない11月初旬に 最初に自分に見せられた大節であり、その節が自分自身の年祭活動の始まりとなった。以来、 毎日の十二下りのお願いづとめ、おさづけの取り次ぎを心定めし、今も出来る限り実行させて頂いている。

この節を以て、教祖が私自身に心の入れ替えを促されてたという事を自覚し、今こそ、仕切っての成人を心がけ、全身全霊でようほくとしての任務に邁進し、教祖にお喜び頂ける年祭を迎えさせて頂きたいと念願している。

とのよふな事をするのも月日にわ

たすけたいとの一ちよはかりで

(十二 78)

氏名： 美馬孝俊

年齢： 66

国名： アメリカ ハワイ州

直属： 越乃國